

## 第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和2年10月9日（金） 午前10時～11時20分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：伊豆裕一会長、太田順子副会長、石塚良明委員、倉橋千弘委員、鈴木里枝子委員、松井章子委員、諸井宏司委員、吉林久委員

欠席委員：趙驕陽委員、安田育代委員

事務局：奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、井原卓巳、篠ヶ瀬秀哉

傍聴者：2名 ※報道関係者2名

会議録作成者：UD・男女共同参画課 井原

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

---

### 〈会議次第〉

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 議 事

（1）UD事業の進捗状況について

（2）八幡駅周辺バリアフリー基本構想について

（3）第3次ユニバーサルデザイン計画策定にかかる意識調査について

#### 4 その他

（1）シトラスリボンプロジェクトについて

#### 5 閉 会

---

### 〈配付資料〉

（資料1）令和2年度 UD事業の進捗状況

（資料2-1）八幡駅周辺バリアフリー基本構想（案）

（資料2-2）基本構想中間案意見整理表

（資料3）第3次ユニバーサルデザイン計画策定にかかる意識調査

（資料4）シトラスリボンプロジェクト

---

### 〈会議の経過〉

#### 1 開 会

（事務局）

第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市ユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議および評価をする組織として設置されているものである。本日は趙委員、安田委員が都合により欠席である。

## 2 会長あいさつ

伊豆会長挨拶

## 3 議事

(事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により議長は会長が務めるとされているため会長にお願いしたい。

### (1) UD事業の進捗状況について

事務局より

(資料1) 令和2年度 UD事業の進捗状況  
について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(吉林委員)

UD週間については、全市に対する啓発という意味で、他の区でも企画を実施しているのか。

また、自転車によるUDワークショップについて、既に実施された10月4日の状況についてお伺いしたい。

(事務局)

1点目のUD週間の啓発については、市役所ロビー、図書館のほか、各区でもUDふれあい事業として、UD製品やパネルの展示等を行っている。特に東区は7月、8月に大々的に実施している。

2点目の自転車によるUDワークショップについて、参加者は10名ほどであったが、視覚障がい者でも楽しめる自転車やチャイルドトレーラー、2人乗りタンデム自転車などを体験した。実際に、目隠しをした状態で2人乗り自転車に乗るなど、視覚障がい者も含め、誰もが同じように自転車を楽しむことができることを学んだ。

(伊豆会長)

自転車自体、普通に利用するとあまりユニバーサルな乗り物ではないと感じるが、視覚障がい者だけでなく、聴覚障がい者等、色々な障がいのある方に楽しんでもらえるような試みが考えられると思う。

(松井委員)

チャイルドトレーラーとは何か。

(事務局)

自転車の後ろに子どもを乗せて牽引するものである。道路交通法上、一般道を走ることはできないが、公園等であれば利用することができる。

(松井委員)

第2回のシニア世代向けは、免許返納をした方等を対象にとあったが、免許返納をした方が自転車に乗れるのか。第1回と同様、高齢者の疑似体験として実施するものか。

(事務局)

高齢者が安全に自転車を楽しんでもらうためのルールを教えていただくと同時に、電動アシスト自転車等を利用することで、足腰が弱った方でも移動ができることを実際に街中で体験するものである。

(松井委員)

UDトークの市長記者会見において、肝心な所で不謹慎な誤変換等が見られた。リアルタイムでの誤変換修正は行っていないのか。

(事務局)

新型コロナウイルスに係る緊急の会見であり、休日でもあったことから修正者が用意できない状況で利用した。通常の定例会見の際は、事前の単語登録及びリアルタイムの誤変換修正を行っている。現在は、緊急の会見においては利用しないこととしている。

(松井委員)

緊急時は手話通訳にて対応しているということか。

(事務局)

手話通訳も行っていない。緊急時において、手話通訳者が手配できない状況において、代替としてUDトークが活用できるのではないかとということで導入した経緯がある。

(松井委員)

緊急時だからこそ、全ての人に情報を届ける必要があるのではないかと思うため、対応していただきたい。

(事務局)

所管課と協議、検討させていただく。

(伊豆会長)

UDトークの会社において、アプリのアップデートはサービスに入っているのか。ユーザーとして、誤変換等のフィードバックができるとよい。

(松井委員)

入っている。また、変換の精度は、話し方や滑舌等によって左右される。

(事務局)

広聴広報課では、原稿を可能な限りやさしい日本語で作成するよう通知をしていることも報告させていただく。

(伊豆会長)

自転車で街中を、という話があったが、自転車専用レーンの整備等も併せて検討していただきたい。

(事務局)

所管課に伝えさせていただく。

(諸井委員)

UD学習支援事業について、多くが小学4年生と中学1年生に集中しているが、その時期に実施することと決められているのか。

(事務局)

学習指導要領の中で、UD学習は小学4年生と中学1年生に当てられているため、その時期にUD学習支援事業の申込を多くいただいている。当然、学年を限定しているわけではなく、他の学年においても申込があれば実施することは可能である。

## (2) 八幡駅周辺バリアフリー基本構想について

事務局より

(資料2-1) 八幡駅周辺バリアフリー基本構想(案)

(資料2-2) 基本構想中間案意見整理表  
について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

**(鈴木委員)**

構想案についてではないが、街中を綺麗に整備するとスケートボードの練習に使われ、点字ブロックや花壇の椅子等の破壊につながることが多い。必要な人が必要なときに使えないことがとても虚しく感じる。

罰則やスケートボードができない仕掛け、他にスケートボードの練習場所を提供するなどの対策はないか。せつかく構想を練って整備をしても維持ができないのは非常に勿体ないため、併せて考えていただきたい。

**(事務局)**

所管課である道路部局に伝えさせていただく。

スケートボードが東京オリンピックの競技種目として注目されている中、先日テレビで正式な競技者が「正しい場所で滑ることが格好いいことであり、それ以外の場所で滑ることは格好いいことではない。滑ってよい場所といけない場所があるということ認識してほしい。」とのコメントを紹介する。

**(吉林委員)**

7月21日(火)の静岡新聞の記事にて、「浜松市議会建設消防委員会において、遠州鉄道八幡駅の耐震化詳細設計の助成費用1,000万円などに充てるため、鉄道駅バリアフリー化整備費助成事業内の予算を組み替えることを了承した。」とある。全体像が見えないが、どのように解釈すればよいか。

**(事務局)**

所管課は交通政策課であり、委員会も異なるため詳細を聞いているわけではないが、八幡駅はバリアフリーとは別に耐震補強の問題も抱えており、緊急対応が必要であることが判明したため、早急に対応するための予算の組み換えを議会に報告し、了承を得たということかと思う。

**(吉林委員)**

重要な事項を優先したことは分かるが、組み替え前の事業の停滞を招くのではないか。

**(事務局)**

交通政策課がどのように対応するかは分からないが、組み替え前の事業について、予算が足りず実施できないという事態を防ぐため、補正予算において組み戻しをして対応するのが通常である。

**(倉橋委員)**

障害者差別解消法が制定された際、障がい者の会で話し合う中で事例として真っ先に挙げたのが八幡駅であったため、構想について理事会に伝えたところ大変喜んでいただくことをご報告させていただく。

(事務局)

6月議会において、令和3年早々から着工できるよう準備をしている旨、報告している。

(石塚委員)

第2章の具体的な構想部分から始まるのが一般的だと思うが、その前に第1章として、何故必要なのか等の背景が整理されていて非常に分かりやすい。

8ページに基本構想の位置づけとして、関連計画が羅列されている。「等」の中に観光ビジョンが含まれているかと思うが、安全・安心・快適な旅行を目指すユニバーサルツーリズムの重要性が高まっているため、観光の視点からのUDも入っていることをお伝えする。

(事務局)

当初、関連計画として観光ビジョンも掲げていたが、所管課から意見があり、等の中に含めさせていただいた経緯がある。

(伊豆会長)

ヤマハイノベーションロード等は観光資源の1つであるため、「ユニバーサルツーリズムの観点」というような一言を挿入してもよいのではないかと。

(事務局)

検討させていただく。

来週、協議会でも意見をいただくほか、国とも協議する中で微修正はあるかと思うが、概ね現在の方向性で最終案としてまとめさせていただく。

今後、意見等あればご連絡いただきたい。

### (3) 第3次ユニバーサルデザイン計画策定にかかる意識調査について

事務局より

(資料3) 第3次ユニバーサルデザイン計画策定にかかる意識調査について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(吉林委員)

前回よりも回収率が上がっていることは、意識の向上が見られるということで、良いと思う。

今後、どのような結果分析を予定しているか。例えば、地域性が反映されるものなど、これからの活動にヒントを与えるものも多い。

**(事務局)**

委託先である調査業者によると、企業の回収率が大きく上昇していることは珍しいとのことである。

分析について、具体的には現在検討中だが、性別、年代、居住地等、クロス集計をする中で、それぞれにおけるUDの特徴が表出すると考えている。

例えば、デジタルについて年代別に聞いた際、高齢層の方が興味がない等の結果であった場合、デジタル化を進めるにあたって、オンライン講座と実地講座の併用が必要等、様々なことが分かってくる。

**(吉林委員)**

業種によって偏りが出るとは思いますが、それも参考になるものであると思う。

市民2,500人、事業所500社を無作為抽出したとのことだが、属性の偏りが出ないようにバランスよく抽出したか。

**(事務局)**

クロス集計が必要であるため、区ごとに必要標本数を抽出したほか、その他の属性についても偏りが出ないように抽出した。

**(伊豆会長)**

報告の際は、ポジティブな面に注視しがちであるが、問題点を発掘するような分析をしてもらいたい。

**(松井委員)**

コロナ禍においてデジタルの重要性が増したが、その操作等について、年齢はあまり関係がないと感じる。

高齢者にとって、機器の購入等、環境の整備は難しいが、機器の操作に関しては個人差があり、高齢だから苦手、若いから得意ということではないため、年齢で決めつけるのは危ないと思う。

大学生で、機器の操作が分からず、オンライン授業に対して不安を感じる方がいると聞いている。まずは小さいころから機器に慣れることが必要であると思う。

また、デジタル化を進めるのであればWi-Fi等、通信環境の供給も必要である。

**(事務局)**

アンケートの結果から傾向等は分かると思うが、個人差について等、改めて意見をいただきながら調整させていただく。

#### 4 その他

##### (1) シトラスリボンプロジェクトについて

事務局より

(資料4) シトラスリボンプロジェクト  
について説明。

#### 5 閉 会